

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092400078		
法人名	社会福祉法人 桜園		
事業所名	グループホームさくらそう(かのん)		
所在地	福岡県筑後市大字西牟田6028-1		
自己評価作成日	平成29年1月25日	評価結果確定日	平成29年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4092400078-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1 九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成29年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念の「和」を基本とし、さくらそうの理念として「笑を中心に自由、思いやり、安心、信頼をそしてみんなでささあいながら、慣れしたしんだ『ちっこ』でさあ暮らそう、を実現できるよう職員一丸となって支援に取り組んでいます。何かのご縁があつてさくらそうにご入居頂いた入居者の皆様には「さくらそう」に来て良かったと思えるよう日々関わりを持ち、それぞれに役割を持って頂く事でさくらそうでの生活をより豊かにして頂ける様援助を行っています。地域貢献活動の一環としてさくらそうカフェ(認知症カフェ)の継続と、同グループ内での地域見守り支援活動に参加し地域の皆様を知って頂く機会を設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念を全職員が十分に把握し、利用者日常生活支援に活用している。管理者や職員との連携も良く、利用者が家庭的な雰囲気の中で明るく楽しく笑顔が絶えず生活している。地域との繋がりがもあり、定期に開かれる地域総会にも参加し、事業所のアピールも促している。事業所前の広場が指定のグランドゴルフ場となっているため、地域の方との交流の場となっている。毎月研修を実施し全職員へ周知を図り利用者生活支援へ繋げている。年2回の法人顧問弁護士による人権や権利擁護などの勉強会を行っている。食事専任職員が担当し利用者に家庭的な料理を提供している。共有スペースも明るく利用者と職員との手作りの作品が飾られている。居室内も個々の利用者に沿った生活しやすい心遣いをしている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初にスタッフで作り上げた理念を元に、日々のケアに取り組んでいる。又、誰が見ても分かるように理念を掲示している。	利用者への日常生活支援は、理念を基に全職員が把握できるように申し送りや研修等を通じ周知している。利用者が安心した家庭的な場所で生活ができるように取り組んでいる。また、利用者同士の支え合いも見受けられた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	さくらそうカフェや河川掃除等を通して、地域の一員として地域の方とのつながりを持って生活している。	地域との交流は、さくらそうカフェや地域の行事などを通して行っている。事業所前の広場がグランドゴルフの指定場所となっているため、散歩などで地域の方と挨拶、声掛けをしている。地域の総会などに出席し地域行事にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献活動として「さくらそうカフェ」を毎月行い、地域の方々に認知症予防の取り組みを実践している。又、認知症医療センター植田病院とも協力し、テーマに沿って専門職の方に講義して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の報告内容の中にインシデント・アクシデント報告や日々の活動報告がある為状況・その後の対応の説明、日常生活の状況においては写真を元に説明を行っている。	運営推進会議は、定期的開催され事業所の業務・行事報告や事故報告など行われている。質疑応答や意見・要望なども活発に行われている。運営推進会議に限られた日時等で開かれるために参加者が如何しても固定している。	運営推進会議は定期的開催されているが参加者は限られた方となっている。参加しやすいような工夫はしているが、今の現状となっている。運営推進会議に係わる方が参加しやすいようなアイデアを考え、運営に活かせるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より運営上での不明な部分に関しては直接市に尋ねて相談を行ったり、運営推進会議の際出席頂いた時にお話を行う等して関係性を作っている。	市の担当者や地域包括センターとは日常より連絡を行い、制度に係わることや分からないこと不明な点などをその都度確認している。市の担当者より事業所の空き状況などの問い合わせもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは身体拘束を行わないとの認識を持ち、玄関の施錠は行っていない。屋外へ出る事を希望される方に関しては付き添いを行っている。	事業所として身体拘束は行わないこととしている。家族へは契約時に説明を行っている。転倒の恐れがある方にはセンサーを利用して転倒防止に努めている。散歩を希望される利用者は職員と共に近くを歩き気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止等への研修に参加を実施し、また会議等を通して虐待が起こらないようにどのように対応したらよいのか説明や話し合いを行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人がいらっしゃる方はお一人であり、日常生活自立支援事業を利用されている方はいない。しかし、今後のご家族様の状況によっては必要となられると思われる方に対しては、社会資源が活用できるよう事前の説明を行う必要はあると思われる。	地域包括支援センターが主催の年4回実施する権利擁護研修等に参加し職員へ周知している。成年後見人や日常生活自立支援事業についても、利用者の生活状況を見ながら必要に応じ面会に来られた家族へ説明や相談を行なうように工夫している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明を中心に十分な説明を心掛けている。また必ず契約の終わりには持ち帰って頂いた所で再度ゆっくり内容の確認を行って頂き不明な点・疑問点は遠慮なくお尋ね頂けるようお願いをしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、ご家族からの意見がある際には検討を行い運営に反映できるように努めている。	家族へは契約時において意見や要望等について説明し、フェースシートなどに記載し把握している。入所後に気付かれた時には意見箱や職員へ申し出ていただくようにしている。家族からの意見等について職員で協議・検討している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中や普段の会話の中で出る内容を精査して改善や反映できるように努めている。	日頃、利用者支援において気付いたことや取り入れて貰いたいものなどを職員会議で話し合いながら出来る限り職員の要望・意見に応えられるように工夫している。今後の参考のために記録を残している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々人の評価においては人事考課を通して反映しており、また職員区分などの導入で各自の働き方に応じた対応を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	職員募集、採用に当たっては年齢や性別などを理由に排除するなどの対応は行っていない。さくらそうでは20代から60代まで幅広い年齢層の方々が自身の持っている能力を発揮して働いて頂いている。	職員採用後、その能力に応じた配置を行っている。利用者の状態状況に応じて、職員間で共有し確認を行いながら日常生活支援を行なっている。また、会議や研修・申し送りなどで気付いたことがあれば話し合い、記録等を行っている。男性職員も多く雇用している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	顧問弁護士の先生による勉強会を行い、人権や権利擁護について、判例を元にお話をして頂く機会を設けている。	法人の顧問弁護士による年2回の権利擁護や人権に関する研修を行っている。職員の理解度や意欲などについても確認し協議している。利用者に対する積極的な取り組みが出来るような工夫も行なっている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設内研修の開催、年2回の顧問弁護士による勉強会、その他外部研修への参加の機会を設けている。しかし、施設内での職員教育プログラムや体系的なもの、また新入職員への指導が上手く行えていない面もある為、今後の課題となっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回開催されている市内のGH部会に参加し、他施設の職員の方との意見交換や交流会を行っている。同部会主催の研修会に職員参加をすすめ、他施設職員との交流の機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する事自体を迷われる方もいらっしゃる為、ご本人の話を傾聴したり事前に施設を見学して頂くなどの対応を行っている。ご入居前に少しでもご本人と関わる事で関係性を構築できるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みに来られるご家族様は現状として困られている方も多し。またどのような事業所がありどのようなサービスを受けられるのか分からないと言う方もいらっしゃる為、その都度に説明やお話を言い気軽に相談して頂ける関係性をつくれるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込の際に現在の状態やご家族の意向等を聞き、必要となるサービスが何なのか見極めて説明を行っている。また利用者の様々なケースを同グループ内で共有し対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護を受ける人」ではなく、自宅で生活しているのと同じように、シーツ交換を一緒に行ったり食器を運んで頂いたり洗濯物を畳んでいただきご自分の衣類は片づけて頂くなど暮らしを共にする者同士の関係性が持てる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診の付添いや、特変時の詳細連絡などご家族様とのつながりを持てるよう配慮している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	あまり多くは無いが、ご家族以外のご友人や近所の方の面会等はある。いつでも面会に来て頂けるようオープンにしている。	利用者の馴染みの人や場所などは、家族に聞き取りフェイスシートに記録し職員間で共有している。利用者や家族からの申し出があれば応えられるようにしている。友人の方がたまには面会に来られる。買い物やその他の外出など希望がある場合には家族と相談している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや会話を通して、他者間の交流の橋渡しを行い、どうしても他入居者との関わりを取る事が困難な方は職員が関わりを持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に来所されたご家族より、現ご利用施設でのご様子の相談を受けた事がありその際に必要な対応についてアドバイスをさせて頂く場面もあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成の際や、ご本人より訴えがある方などは日頃からお話を傾聴して意向の把握を行っている。	新規時やプランの変更時には必ず、本人、家族の意向や希望を聞き取りアセスメントシートに記録しケアプランの作成資料として活用している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に状態確認を行い、ご本人のご家族からお話を聞き、情報収集を行いアセスメントシートを作成し把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で状態の把握に努め、記録に残している。また会議等の中で職員間で情報の交換・確認を行い、個別マニュアル等に反映させている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの事前の意向確認を行い、日常生活のなかでの状況を介護スタッフと話す事でご本人の状態に合わせた介護計画の作成に努めている。	ケアプラン作成には、事前に聞き取ったアセスメントシートや各担当職員が日常での会話の中での要望等を取り入れながら本人が自分らしく生活できるようにカンファレンスの中で話し合い介護計画を作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケアプランに沿った記録を行い、連絡ノートや会議の中でご本人の状態の見直しや情報共有を行い実践に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の訴えを見極めながら、事業所として「出来る事」「出来ない事」を検討し、出来るだけ柔軟に対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市からの支援を受けている検診や注射（肺炎球菌など）を行う機会があればご家族の希望をもとに実施支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にかかりつけ医を継続される方、また新たに变更される方はあるが、受診の際や体調不良の際などかかりつけ医と連携を取り必要な対応が取れる様に支援している。	基本的にかかりつけ医への受診は家族が行っている。受診の際には本人の状態状況を書面にして主治医に提供している。歯科訪問受診を家族からの要望でかかりつけの医師が訪問することもあり医師との連携は築いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調面など医療的な事での気づきに関して、看護師に報告を行い必要場合は医療機関への相談や受診につなぐように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には医療機関のソーシャルワーカーに状態の確認を行ったり、病状説明への出席依頼を行う等して対応している。また、協力医療機関などとは、普段より相談を行う等して連携に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化された場合は入院後の対応など、必要事項について事前に説明を行っている。また、状態が悪化されGHでの生活が困難になってこられた方についてはご家族に相談を行い住み替えの検討を行っている。	現在は軽度の方が多く、状態変化で悪化する利用者はいない。看取りについては研修等に管理者、職員が参加し看取りに向けた方向性に努めている。現状を把握し状態が悪化する前に本人、家族に相談、話し合いを行い早めに対応している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、施設内研修として消防署に依頼して心肺蘇生法やAEDの使用方法について講習を受け、訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回の避難訓練の際に火災だけでなく地震を想定して訓練も行っている。	事業所の避難訓練として火災だけでなく地震や風水害などを踏まえた取り組みを行っている。地域で行われる防災、防犯伝達訓練も連携している。非常時用備蓄品として自動販売機を設置している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格をある程度把握した上で、言葉遣いに注意しながら失礼のないように声掛け、対応を行っている。	利用者の人格・性格等を把握しながら言葉掛けに注意している。入浴介助やトイレ介助での見守りはできるだけ同性が対応できるように配慮し心がけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中から思いや希望を汲み取れるように関わりを持ち、場面に応じて自己決定ができるように支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な業務としての日課は決まっているが、本人様のペースに合わせて希望に沿えるように支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人様のお好きなように衣類等の選択を行って頂いているが、季節や気候に合っていないような服装をされている時は声を掛けさせて頂き、状況に応じた身だしなみの支援を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前に個々の好きなもの、嫌いなもの(アレルギー等)の調査を行い、食事が楽しみになるように役立てている。準備や片付けも状況に応じて行っている。	利用者の嗜好を考え食事を提供し嫌いなものはほかの食材で調理し本人がおいしく、楽しく食べることができるよう工夫している。おやつ作りは定期的に利用者と一緒に楽しみながら行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、チェック表に記載し一日に必要な量が確保できているかを確認している。水分量が少ない方に関しては本人様がお好きな飲み物を提供することで摂取量の確保に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っており、必要であれば介助も行っている。週一回の義歯の洗浄や必要に応じて訪問歯科での口腔ケアを受けられるように支援している。また、年に1回歯科衛生士を講師に迎え、口腔ケアの研修会も実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の確認と申し送り等を考慮しながら本人様に応じた排泄の支援を行っている。出来るだけトイレでの排泄が出来るように排泄の訴えを見逃さないように留意している。	現在、自立排泄の利用者が多く、本人の判断に委ねている。利用者の排泄サインを把握し見守り、さりげなく声掛けながら排泄支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前に牛乳を提供したり水分摂取が少ない方には好みの飲み物を提供したりして個々に応じた予防を心掛けている。また、体操を行ったり、場合によっては看護師や医師に相談を行い、下剤を服用して頂くことでスムーズな排便ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルチェックを行い、体調を考慮しながら入浴の支援を行っている。また、本人様の希望に合わせて入浴の時間帯を変更したり、個々に沿った支援を行っている。	利用者に合わせた入浴支援が行われている。本人の不安や羞恥心に配慮しながら安心した入浴が出来るように声掛けや誘導を行っている。個々の希望する時間や入浴温度等にも心がけている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の状態に合わせて午睡時間を設けたり、夜間の就寝時間の希望があれば出来るだけ希望に沿うように支援している。また、居室内も空調等を調整することで快適な環境を実現できるように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎の処方箋を見える場所に置き、すぐに確認できるようにしている。副作用の症状がみられるような場合には看護師に報告し状態の把握に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮し、畑の草むしりや農作物を育てたり、習字を行って頂いたりして、楽しみごとや気分転換等の支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物等の外出希望があれば出来るだけ希望に沿うように努めている。また、季節に合わせた場所への外出も検討しており、ご家族にも協力を仰ぎながら出かけられるように支援している。	お誕生日に外出し本人の食べたいものや買い物等に出かけている。利用者の奥様が入院されて家族の対応ができない場合には、利用者と共に職員の付き添いで外出支援を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭管理はご家族様に依頼しているが、必要に応じて一定の金額をお預かりし、外出時等に本人様が自由に使えるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望があれば何時でも電話が出来るように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁画の作成を行ったり、不快な臭いがしないように空調管理を行っている。また、状況に応じたBGM等の音楽も取り入れ、居心地よく過ごせるような空間作りに努めている。	リビングで他の利用者と一緒にテレビ鑑賞をしたり本人が楽しくできるように配慮している。壁等には折り紙で作った花や飾り物が下げてあり心が和む雰囲気がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の関係性を考慮しながら、必要に応じて席替えを行っている。個人でゆっくりされたい場合の為にソファを用意しリラックスできる環境作りに努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入浴の際に使い慣れた馴染みの物(家具やテーブル、写真等)を持参して頂き、本人様が居心地よく過ごせるような環境作りに努めている。	利用者の居室は個人差はあるが空間を利用して今まで使っていた物や自分で作った飾り物、家族の写真等がおかれ利用者が安らぎを得る場所として工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の「できること」「わかること」を把握した上で過剰介護にならないように努めている。また、安全面を考慮し、廊下等に不必要なものは置かないようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092400078		
法人名	社会福祉法人桜園		
事業所名	グループホーム さくらそう(すずかぜ)		
所在地	福岡県筑後市大字西牟田6028-1		
自己評価作成日	平成29年1月25日	評価結果確定日	平成29年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4092400078-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1 九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成29年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念の「和」を基本とし、さくらそうの理念として「笑を中心に自由、思いやり、安心、信頼をそしてみんなでささえあいながら、慣れしたしんだ『ちっこ』でさあ暮らそう、を実現できるよう職員一丸となって支援に取り組んでいます。何かのご縁があってさくらそうにご入居頂いた入居者の皆様には「さくらそう」に来て良かったと思えるよう日々関わりを持ち、それぞれに役割を持って頂く事でさくらそうでの生活をより豊かにして頂ける様援助を行っています。地域貢献活動の一環としてさくらそうカフェ(認知症カフェ)の継続と、同グループ内での地域見守り支援活動に参加し地域の皆様を知って頂く機会を設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初にスタッフで作り上げた理念を元に、日々のケアに取り組んでいる。又、誰が見ても分かるように理念を掲示している。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	さくらそうカフェや河川掃除等を通して、地域の一員として地域の方とのつながりを持って生活している。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献活動として「さくらそうカフェ」を毎月行い、地域の方々に認知症予防の取り組みを実践している。又、認知症医療センター植田病院とも協力し、テーマに沿って専門職の方に講義して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の報告内容の中にインシデント・アクシデント報告や日々の活動報告がある為状況・その後の対応の説明、日常生活の状況においては写真を元に説明を行って居る。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より運営上での不明な部分に関しては直接市に尋ねて相談を行ったり、運営推進会議の際出席頂いた時にお話を行う等して関係性を作っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは身体拘束を行わないとの認識を持ち、玄関の施錠は行っていない。屋外へ出る事を希望される方に関しては付き添いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止等への研修に参加を実施し、また会議等を通して虐待が起こらないようにどのように対応したらよいのか説明や話し合いを行っている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人がいらっしゃる方は一人であり、日常生活自立支援事業を利用されている方はいない。しかし、今後のご家族様の状況によっては必要となられると思われる方に対しては、社会資源が活用できるよう事前の説明を行う必要はあると思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明を中心に十分な説明を心掛けている。また必ず契約の終わりにには持ち帰って頂いた所で再度ゆっくり内容の確認を行って頂き不明な点・疑問点は遠慮なくお尋ね頂けるようお話をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、ご家族からの意見がある際には検討を行い運営に反映できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中や普段の会話の中で出る内容を精査して改善や反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々人の評価においては人事考課を通して反映しており、また職員区分などの導入で各自の働き方に応じた対応を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	職員募集、採用に当たっては年齢や性別などを理由に排除するなどの対応は行っていない。さくらそうでは20代から60代まで幅広い年齢層の方々が自身の持っている能力を発揮して働いて頂いている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	顧問弁護士の先生による勉強会を行い、人権や権利擁護について、判例を元にお話をし頂く機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の施設内研修の開催、年2回の顧問弁護士による勉強会、その他外部研修への参加の機会を設けている。しかし、施設内での職員教育プログラムや体系的なもの、また新入職員への指導が上手く行えていない面もある為、今後の課題となっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回開催されている市内のGH部会に参加し、他施設の職員の方との意見交換や交流会を行っている。同部会主催の研修会に職員参加をすすめ、他施設職員との交流の機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する事自体に迷われている方もいらっしゃる為、ご本人の話を傾聴したり事前に施設を見学頂くなどの対応を行っている。ご入居前に少しでもご本人と関わる事で関係性を構築できるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みに来られるご家族様は現状として困られている方も多い。またどのような事業所がありどのようなサービスを受けられるのか分からないと言う方もいらっしゃる為、その都度に説明やお話を言い気軽に相談して頂ける関係性をつくれるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込の際に現在の状態やご家族の意向等を聞き、必要となるサービスが何なのか見極めて説明を行っている。また様々な利用者の様々なケースを同グループ内で共有し対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護を受ける人」ではなく、自宅で生活しているのと同じように、シーツ交換を一緒に行ったり食器を運んで頂いたり洗濯物を畳んでいただきご自分の衣類は片づけて頂くなど暮らしを共にする者同士の関係性が持てる様に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診の付添いや、特変時の詳細連絡などご家族様とのつながりを持てるよう配慮している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	あまり多くは無いが、ご家族以外のご友人や近所の方の面会等はある。いつでも面会に来て頂けるようオープンにしている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや会話を通して、他者間の交流の橋渡しを行い、どうしても他入居者との関わりを取る事が困難な方は職員が関わりを持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に来所されたご家族より、現ご利用施設でのご様子の相談を受けた事がありその際に必要な対応についてアドバイスをさせて頂く場面もあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成の際や、ご本人より訴えがある方などは日頃からお話を傾聴して意向の把握を行っている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に状態確認に伺い、御本人また、ご家族よりお話を聞き、ご本人の情報収集を行いアセスメントシートを作成し把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で状態の把握に努め、記録に残している。また会議等の中で職員間で情報の交換・確認を行い、個別マニュアル等に反映させている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの事前の意向確認を行い、日常生活のなかでの状況を介護スタッフと話合う事でご本人の状態に合わせた介護計画の作成に努めている。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケアプランに沿った記録を行い、連絡ノートや会議の中でご本人の状態の見直しや情報共有を行い実践に活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の訴えを見極めながら、事業所として「出来る事」「出来ない事」を検討し、出来るだけ柔軟に対応できるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市からの支援を受けている検診や注射（肺炎球菌など）を行う機会があればご家族の希望をもとに実施支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にかかりつけ医を継続される方、また新たに变更される方はあるが、受診の際や体調不良の際などかかりつけ医と連携を取り必要な対応が取れる様に支援している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調面等など医療的な事での気づきに関して、看護師に報告を行い必要な場合は医療機関への相談や受診につなぐように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には医療機関のソーシャルワーカーに状態の確認を行ったり、病状説明への出席依頼を行う等して対応している。また、協力医療機関などとは、普段より相談を行う等して連携に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化された場合は入院後の対応など、必要事項について事前に説明を行っている。また、状態が悪化されGHでの生活が困難になってこられた方についてはご家族に相談を行い住み替えの検討を行っている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、施設内研修として消防署に依頼して心肺蘇生法やAEDの使用方法について講習を受け、訓練を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回の避難訓練の際に火災だけでなく地震を想定して訓練も行っている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員ひとりひとりが日々意識しながらケアにあたっている。また、「おかしいな」と思うような言葉づかいが聞かれる際には互いに注意し合える様会議等で呼び掛けている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事前にお話をしたり、傾聴を行う事で本人様の望む生活が送れるよう支援したり、どうされたいのかをしっかりと説明し自己決定できるようお話をしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様のペースに合わせた生活が送れるよう個別での支援を行い、状況に応じて食事の時間をずらすなどし本人様の状況に合わせて対応を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どの衣類を着用されたいか一緒に考えたり、身だしなみが整えられるよう鏡やブラシの準備を行っている。場合によっては個別で化粧品を準備したりしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事配膳時にお好きな物は無いか、嫌いな物は無いか確認し嫌いな食べ物が有れば個別ファイルに記載したり食札に記載し職員間で情報が共有出来るようにしている。食事準備は困難な部分があるが、下膳に関しては、怪我等の無い様遠視見守りのもとキッチンまで運んで頂く場合もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人様の嚥下、食事摂取量状態に合わせて個別に高カロリードリンクを準備したり主食をパンに変更し対応している。また声かけの工夫や提供の都度味を変えるなどし水分摂取量の確保に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現有能力を活かし、立位保持可能の方は洗面台へ、困難な方は自席に口腔ケアセットをセッティングし口腔ケアを行って頂いている。また、年に1回歯科衛生士を講師に迎えて、口腔ケアの研修を開催している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意が明確に有る方に関しては訴えの都度トイレへ案内している。尿意曖昧な方に関しては排泄パターンを考慮し、誘導出来る様支援している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為水分摂取量の確認を行い、朝の体操を行ったり入浴時に腹部を温めマッサージを行われるよう当人様に説明を行い実施して頂いている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に本人様にお尋ねし希望に応じた時間に入浴できるよう支援している。ゆっくりと入浴して頂ける様お話をするなどし楽しい雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様が安心して休息できる場所や寝具を使用する事で休息・安眠が出来る様支援している。また、日中においてしっかりとベッドでの休息が必要だと思われる場合にはその旨を説明し居室へ案内し午睡できる機会を設けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師より薬の管理を行い、服薬の際にはお薬シート上に薬を並べ都度、錠数等の確認を行い職員2人にて名前確認を行い与薬を行って居る。お薬変更時には都度連絡ノートへ記載し全職員が把握できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別でのレクリエーションを行い、本人様の生活歴を参考にしたレクリエーションを行っている。また家事的作業を行って頂く事で役割を持って頂き、実施して頂いた際には賞賛している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ個別での買い物を行っている。またご家族様協力のもと外出、外食の機会を設けて頂き、自宅や外出先でご家族、近所の方との触れあいの場面を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル等には発展しないよう、基本的にはご家族様に金銭管理をお願いしている。必要な場合にはご家族様にお願いしお小遣い程度を預かる場合もあり。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば事前にご家族様に協力依頼を行い、希望時に電話が出来る様支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁画作成を行ったり、飾り付けを行って居る。日常の中でコミュニケーションを取りながら時間や季節を感じられるよう換気をおこなったりカーテンの開閉を行っている。また場面に応じて音楽を流したりする工夫を行っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性を見極めながら席替えを行っている。また、適度な距離を取りながらソファ等座れるよう援助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時に、馴染のタンス、物等を持って来て頂く様お願いし持参して頂いている。場合によっては仏壇等の持ち込みをされ、毎日の勤行を日課とされている事もあり。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境である事と身体拘束にあたらな いか両方の側面を考慮しながら、会議等 で話し合いを行い危険の無いように努めて いる。		